会報 JAMT
JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者　宮島喜文
編集責任者　深澤憲治
〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722　FAX (03) 3768-6722
ホームページ https://www.jamt.or.jp

P1　４月15日は“Biomedical Laboratory Science Day”（世界検査医学デー）
P2　輸血テクニカルセミナー2022開催報告
P3　都道府県技師会　各地での取り組み（長野県編）

# “Biomedical Laboratory Science Day”
# （世界検査医学デー）

## ＝　International Federation of Biomedical Laboratory Science　＝
## ＝（IFBLS)からのお知らせ ＝

### 毎年４月15日 は
### Biomedical Laboratory Science Day”（BLS day)

みなさまもご存知である4月15日は“Biomedical Laboratory Science Day”（BLS day)です。
2023年から2024年のテーマは次のとおりです。

Guardians of Quality and Patient Safety: Biomedical Laboratory Scientists

品質保証と患者の安全の守護者（監視人）としての臨床検査技師でしょうか。
新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き始めたことに伴い、行動規制なども緩和しつつある現在、世界各地でウィズコロナ／アフターコロナへの対応が進められています。
臨床検査技師も検査の精度管理をしっかり行い患者の安全を守る事でBLSやその他の医療従事者の認知度を更に高めるために、IFBLSは各国の会員にこの日を認識するように奨励しています。

ところで、このBLS day はIFBLSが診断および予防医学などにおけるBiomedical Laboratory scientistの重要な役割を啓蒙するために、1996年にノルウェーのオスロで開催されたIFBLS世界会議でBLS dayを設立しました。BLS dayの目的は国際的に臨床検査技師がhealth careを提供するための役割についてその意識を高めることです。これはJAMTで毎年行っている全国「検査と健康展」も同様な行事であるといえましょう。毎年、加盟国でその年のテーマに沿った各種のBLS dayのイベントが開催され、その内容はIFBLSの事務局へ報告されています。毎年のテーマは、IFBLSの理事会で健康問題に関連した内容が選択され、国際連合(US)と世界保健機構（WHO)と連携が可能な開発目標を支援します。このテーマは２年間使用されます。みなさまも是非、IFBLSのホームページでポスター や今までのテーマやBLS dayについてのガイドラインをご覧ください。
今後、ニュースタイルでの国際交流の構築スピードは加速されていくでしょう。

今回のBLS DAY ポスター
IFBLS HP: http://www.ifbls.org/

日臨技 国際活動WG　片山 博徳

# 輸血テクニカルセミナー2022開催報告

【 実技研修の様子 】

2023年３月18日、19日に「輸血テクニカルセミナー2022」を東邦大学医学部大森キャンパスで開催しました。過去２回の輸血テクニカルセミナーは、新型コロナウィルス感染症の影響もあり、講義を中心としたオンライン形式の開催でしたが、今回は感染対策を施し、募集人を半分の50名にして実技研修を開催することができました。セミナーのテーマを「安全な輸血療法に必要な輸血検査」と設定し、初日は講義を行い、２日目は実技研修を行いました。本セミナーは日本臨床衛生検査技師会と日本輸血・細胞治療学会の共同事業として企画運営され、輸血検査技術の向上を目的に開催しました。

３月18日の講義では、「輸血検査に役立つ臨床情報」として、造血幹細胞移植に関する講演を行いました。続いて「輸血のための検査マニュアルより」と題して、血液型、不規則抗体検査、交差適合試験に関する講演を行いました。現地とオンラインのハイブリッド開催とて、500名を超える方にご参加いただきました。

３月19日は血液型、不規則抗体、直接抗グロブリン試験と解離試験に関する症例形式の検体を準備し、研修を行いました。班に分かれ十分なディスカッション時間を設け、積極的な議論が行われました。

実際に検体を用い検査をしている受講生は、とても活き活きとしておられました。やはり実技研修は必要なのだと感じました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。次回のセミナーも現場に役立つような企画したいと考えております。

一般社団法人　日本輸血・細胞治療学会　輸血検査技術講習委員会　委員長
井手　大輔（近畿大学病院　輸血・細胞治療センター）

## 参加者からの声

**町田 淳（神奈川県立循環器呼吸器病センター）**

「安全な輸血療法のための輸血検査」のテーマの下、講義(WEB同時開催)、実技と２日間に渡り開催されました。

講義では、「輸血のための検査マニュアル」に基づいた正しい知識・手順の整理と復習をする事ができました。造血幹細胞移植件数は20年前に比べおよそ２倍に増加しており、移植医療を行っていない施設であっても、予期せぬ反応に遭遇した際は、移植歴の有無を確認する事の重要性を再認識しました。

実技では、症例毎に結果の解釈・問題解決法・製剤選択について考察し議論しました。DATや抗体解離試験でのコツなど文献からは習得し難い技術も教えていただきました。予期せぬ反応を認めた際、詳細な分類ではなく、原因の鑑別を重視した輸血を前提とした対応を実践的に習得できました。

輸血検査は患者生命に直結する過誤の許されない検査であり、今回の貴重な学びを、自施設や地域の安全な輸血療法のために還元していきたいと思います。

**【 研修内容 】**

**3月18日：講義　（Web配信あり）**

**～輸血検査に役立つ臨床情報～**

１）輸血検査技師に必要な造血幹細胞移植の知識
東海大学医学部付属病院　豊﨑 誠子

～「輸血のための検査マニュアル」より～

２）血液型検査
久留米大学医療センター　天本 貴広

３）不規則抗体検査
佐賀大学医学部附属病院　山田 麻里江

４）交差適合試験
県立広島病院　藤井 明美

**3月19日：実技**

進行：
東京都立大塚病院　森山 昌彦
藤田医科大学医療科学部/藤田医科大学病院
松浦 秀哲
富山大学附属病院　富山 隆介

（敬称略）

# 都道府県技師会　各地での取り組み（長野県編）

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動と地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。 今回は、長野県臨床検査技師会の青年局の取り組みについてご紹介いたします。

## 「長野県青年局」の紹介

一般社団法人　長野県臨床検査技師会
青年局理事　半田 憲誉

長野県臨床検査技師会（長臨技）の青年局は2011年に長臨技が担当した第60回日本医学検査学会の若手企画、「次世代を担う諸君、集まろう」を機に発足した「長野県若手技師企画実行委員会」が前身であり、2013年に正式に長臨技の一組織として正式に青年局が誕生し、2022年度で活動10周年を迎えました。

青年局では活動のテーマとして「１．若手が研修会を企画、運営する」、「２．若手のニーズに合わせた研修会をおこなう」、「３．若手が講師をする場をつくる」、「４．青年局員がやってみたいことを実行する」、「５．他施設の技師との横のつながりをつくる」などを掲げており、20～30代を中心とした研修交流会を企画、運営しています。

具体的な活動として、宿泊研修交流会、実習を盛り込んだ初心者向け日帰り研修会、コロナウィルスの流行以降はWebを利用した日当直者研修会をおこなってきました。他にも技師会主催の新入会員研修会のサポート、長野県松本市の夏祭り「松本ぼんぼん」へ技師会連としての参加などをおこなっています。今回は2019年におこなった宿泊研修交流会を紹介させていただきます。

会員51名が参加したこの研修会は名刺交換と自己紹介ビンゴから始まりました。グループのイメージキャラクターがデザインされた名刺を交換して自己紹介しつつ、名刺交換の相手に応じてビンゴカードを埋めていきます。場が少し和んだら研修が始まります。この日の企画は「カルタで学ぶ医療英語」。採血や心電図の場で役立つイディオムをカルタを通して学びます。初日の研修が終われば夜はバーベキューと温泉が待っています。

２日目の企画は「グループワーク：夢の検査室をつくろう」です。A1の方眼紙に各グループで夢の検査室をデザインするこのゲームは、予算とアイデアが大切です。まずはグループごとにアイスブレイクを兼ねたゲームにいくつか挑戦します。成績に応じて予算が配分され、検査室に配置する機器や人材の採用に充てます。予算が潤沢であればハイスペックな機器を揃えられますが、なければ中古品になってしまいます。こうした予算の不利を解消する方法がマジックカードです。これはAIを搭載したサポートロボなど、アイデア次第で何にでもなれる魔法のカードです。現実的な未来を見据えた検査室、ファンタジーなアイデアを盛り込んだ検査室などなど、マジックカードを駆使して各グループで様々なアイデアが詰め込まれた検査室ができあがりました。

写真上：研修会を終えて集合写真
写真右：夜は定番バーベキュー

今回紹介させていただいた研修会に限らず、青年局では遊びと学びをセットにした研修会を多く企画してきました。こうした企画は局員と打ち合わせとリハーサルを重ねて誕生しています。青年局の活動は暖かく見守ってくれる技師会の先輩方、実際の参加者と、運営する局員によって支えられています。コロナウィルスの流行により難しい時期が続きましたが、今後も青年局では研修会を通して施設を超えた横のつながりを作っていきます。

会報JAMTに掲載する都道府県技師会での取り組みや、検査技師の活動に関する原稿・情報を募集しています。ご投稿は当会事務局までメールでお寄せください。

**（編集後記）** 今年の桜は例年になく早かった。気がつけばツツジが咲き始めた。来月からはいよいよコロナ感染症も５類へと扱いが変更される。群馬医学検査学会も久しぶりに全面対面で開催される。韓国や台湾の友と画面越しではなく再会できることが待ち遠しい。しかし、一方でサル痘が猛威を振るいだしたようだ。人類と感染症の戦いが繰り返されるのだろうか。もうこれ以上の犠牲は御免だ。しっかり備えないといけない。　（滝野）